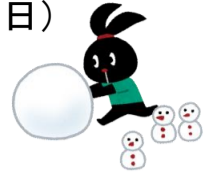


# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増えてきています●

A群溶血性レンサ球菌は上気道炎や化膿性皮膚感染症(とびひ)などの原因菌としてよくみられ、菌の進入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。

### ◆A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はどんな病気？

球型の、赤血球を壊す(溶血)毒素をもつ細菌による感染症のひとつで、主に学童期に多く、3歳以下の乳幼児や大人には比較的少ない病気です。潜伏期間は2～5日です。

- ・症状………突然の発熱とだるさ、のどの痛みで発症し、イチゴのような舌(写真参照)が特徴です。嘔吐を伴うこともあります。細菌の毒素により「猩紅熱」に進行すると、点状紅斑や日焼け様の皮疹が全身に広がります。合併症には、リウマチ熱や糸球体腎炎などがあります。
- ・感染経路…患者のくしゃみなどのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染、細菌が付いた手を介する接触感染です。主にヒトとヒトとの接触で感染しやすく、家庭や学校での感染も多いです。兄弟間の感染率は25%とも言われます。
- ・流行期……冬季、および春～初夏に2つの流行ピークがあります。



国立感染症研究所感染症情報センター「感染症の話」より抜粋

### ◆かかったらどうすればいいの？

- ・抗菌剤による治療を行います。症状が改善しても、お薬は決められた期間きちんと飲みましょう。
- ・のどの痛みがひどい場合は、食事は柔らかく薄味にするなど工夫しましょう。水分補給を心がけましょう。

### ◆予防法は？

- ・症状のある人との密接な接触を避けることがとても大切です。予防のためには、菌を自分の手で口や鼻に運ぶことを避けるため、良く手を洗うことが大切です。うがいもしっかりおこないましょう。

## ●インフルエンザが引き続き警報レベルです●

熊本市の定点医療機関あたりの報告数が、51.84(定点数25ヶ所、患者報告数1296人)となり、先週より少し減少したものの、依然警報レベルを超えています。引き続き、手洗い、咳エチケットを心がけ、感染予防に努めましょう。

期 間		平成30年 4週		平成30年 5週	
		1/22～1/28		1/29～2/4(最新)	
疾患名 (百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1399	55.96	1296	51.84
RSウイルス感染症		1	0.06	7	0.44
咽頭結膜熱(プール熱)		4	0.25	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		16	1.00	40	2.50
感染性胃腸炎		93	5.81	78	4.88
水痘(みずぼうそう)		3	0.19	1	0.06
手足口病		3	0.19	9	0.56
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		8	0.50	13	0.81
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		2	0.13	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		9	1.80	2	0.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00